KODAK Color Control Patches © The Tiffen Company, 2000
Kodak LICENSED PRODUCT
Blue Cyan Green Yellow Red Magenta White 3/Color Black

伊地知文庫
文庫20
128
1

文庫20
128
1

高松宮本「連歌新式抄」
（明記）
寛文五年八月　石屋作右衛門

連歌新式抄上

伊地知氏書冊

一 連歌新式　後普光園院殿作始行也二条殿也
良基公也　号也　有也　左相國也　文龍也
里数長四近九十二年元建治より巳上二百八十九年歟

一 新式追加　後常恩寺殿書加
行也　一条左内府也　花園也　きゝ中の
月相の又出加行也　花園也　きゝ中の
るとゝまれさ出かて先相也　文ゝ也

一 并 新式今案ホ　宵相の又出加行也　花園也　きゝ中の
るとゝまれさ出かて先相也　文ゝ也

一 韻字事　白のとまり　のゝ也

一 物名　名々の字同　夕暮時雨　たそゝれホ
ゝ准ゝ

めゝの連と留ゝ也夕暮も時雨も時雨も暮も時雨も名暮の名也趣別也
限さのゝきゝす家頼の後中はゝくゝまれ有ゝ時も推量ゝてゝく
と也今　ハふ入　一与詞字不嫌　あくまて新式也時雨夕暮なと
字ゝゝハす　一拍名与物名の嫌打越　時雨夕暮れきと
となり　中ゝ雨ゝにけきなきなゝ氏同
まゝ又ゝ白ゆ

小なと留るふれ字のまゝあり
一祠字つくりかからんとて
まゝ八二句嫌也是追加也
然ひの形可嫌
打越能准之
一武字を代数句れ外称ひかれとく
誠八一関之悩おハ念の関之称ひなか懐紙を其て
一可関之　背柏　今案
一輪廻之事　生死輪廻同前打越へ　出る迄者の付やられす也
一薫と云
句におゝると付て又とみちを付へしすかまてハ
是を付へしおゝると云字一ツハ浮なる也　たき物と云句におゝ　ほと付るハ句ひのこ
くるかとふきさと云る也さやうに付くきてゝ小又お象を付るも打象
然ての面くま八出まてこゝろやうなるとて又付れハ打越へかへる也其を付
る八其のこゝろとそて漕る也然者分別也当世
然附るあしくと云に其句を八付へし漕字あり
一煙と云句に里　煙に里を付　てたき物の形
を付て又焚焼なと薪の形をふ付　能准之
不付打越まふりなれハ薪の形をふり
ゐるゆゑ二句あひあへハくるしかるすく
一夕立に雲を付て打越
に電雷不可然　夕立もかみなりいふうちの時分夕立もさかりき
もれに雲を付てく又電雷さかりしきものなり
一雲に富士を付て又氷室ふ可然　能准之
能と年ハ雪と氷室電を
きらふ也氷室に氷の形形を嫌也氷室と云ハ仁徳天皇御宇六
十二年五月に額田大中彦の皇子闘雞と云所に猟しにお給て
山にのかりて見給ひしハ野中に庵ありとひたまへハ室なり
と答此もの氷室なりとや申拾とひたまへハ土を去事計
ほりて茅萱なとをあつくおさよろに其をあつくふさてさとく
中也皇子きまりを元て仁徳へなまり給ふ感ありて大和文にある
是氷を奉嫌也それ後よ其国々所くまなるゝ也貢取そく置
一日にそ水司四月一日より九月盡迄奉る也大早此時用也私

先ハ六月一日ニ用之発句
なと然候暑ニの嫌也
一暑と云句に西影を付て
月影を付る事西影とのと云て其代不付
之事ニ其理りなし当代ハ其の嫌之　文字ニ二字も　理りも有
今也かもくるし　一遠輪廻事　一折にまそて又二三四折にも
かりさる也　嫌を遠輪廻といふ成り
一催合花と云句に風とも霞とも付て又
不可付之数句を隔といふとも一座不嫌之
催准　催合とハ雨くハといふ也花に風霞なとの影を付て
之　よの折に又さやうに付る事也但当世ハ付やう句により
このたれハ花に風も霞も其句付る也句によりてハおもしく花にかけ
きらす別のをのりもこのおもちあまり

一花に風霞乃影付る事あまり強不及沙汰歟
此義　一若指可守新式歟　是肖今也句によりて似合るハ付と云心也用此義とすへし追加
新式をはへにす可守新式とや　一竹と云句に世の字付て又衆乃字不
付て此影文遠輪廻也　竹のよと云心に付る也竹と云に世と付てまつこれの折
に竹に衆の字不付也是ハむかし乃付やう也当世世の代付るよ
ところ也世文衆なとた竹を付る也ねにつきなとハ竹に世をも
不可付つきなきさ
に去なとハ付へし　一本哥事　哥なとをそて付合にする也
一三句り
まつるへりしと　なお説相　證同く
のうるてと付て又其ハ其くへハ当るの哥も秋さけるう
と云句に霊乃内もおもり月影を付るを三句に
まつると云也一句ハ二当のうちに其ハ其に似る当のこかまる

濫今やとくらん此哥の心也然ル又年乃内にまうて八来年になりて一
とせとやいはんこぞとやいはん此哥はまくいひといへ
ふ巻也是ゆけ哥乃心也本説物語同く古事なくして云るて
くる事は一の絵也ろまても別の古事をていとへて不巻也物
語も源氏物語にくきうる哉伊勢物語ありて三句もへ付る
よくこや源氏にて付あり又源氏此心ありもとるへうさる也たとへ
くすむるの世のうち消息してつれなさに雲やつもるらんわかな
つむ袖さそ見ゆらんかきるくをふひの世への壷乃むしきくと
やうまて付しる三句やくうんさ云時八いやこたまる八も日々不盡
やうろくさ此うへよつれなく見ゆる哉乃何八雷とやうて付し
るくるしかるましく此外と
然此大方をゆけ哥と申也

不可用之 至続後撰集一の用 本哥ハ候又不定 **一九新古今已来の作者** 是八本哥事也古今 後撰 拾遺後拾遺金葉詞花千 載新古今是八八代集也八代集二代そへて十代集共用之 新勅撰続後撰これ十代集也哥にハ三代集を用也 **一本**

哥堀川院百首作者まてをとるへし 今案より二十年 **一説為**

弁おほや末次集に入せ可用とも此心也氏作者八撰集に
不入とも可用なり為家為氏の代まてを用

近代作者詠哥まは不可用之

本哥とはいふはおよそ引合せ付事也詠哥
とは八一句此ま也たとへハ小町に時為とまます共も雨夜まても近濃
夜まても御集此時お節郭公なとをきくておそりしあら
哥にも小野の里の時為なとおしえそれをとり数句まても
平句まても小野の里此時為なとて一句にする哉詠哥と八云
なき数ふるをおるに小野里を云に時為と付る句あるを人の小野に
時為よみくあうとたえは八雨夜のおそりしてはなくハいれぬ
あり付合にもそれ之 **一堀川院両度の作者迄ハ先ヒ継トモ用之**
本哥にするなり

近代集一の為本哥之例 堀川院百首二度あり十人して
二百首つゝ也以上千首の心なり

二千首あまりを作者ハ廿一代集めに入たるをもなき歌よな
るも人も覚えすとの歌廿一代集めに出ぬとに十代集く
おきてある有不可のなき歌と云すいれぬ也十代集
の作者ハ名此の末の集に入とも恋歌よなる也 一作人のお
まほく不知歌をハ付合に「不可」好縁事
可引用證歌也 人の必ずしもおぼえさる歌なと付合
よみならはさる也人のつよくしらさる歌を
ハせぬかよききも證歌なとよハ人のしらぬ歌をひけと也万の事ろ
まち也にあひある歌をハ可用也歌なとをとりてあまつけなる
あしき也本歌あるも可用ことに別る也
やまとうたに連歌せんのこころなり 一後普光園御筆
のちとよむへしごとよむハ天子の代を済まへり此御名なとまん
に無不良院あり あまてて又先皇様なとを後京極良院なと
ト事也後法大寺左大臣なとごとよ付くる也此ちの法大寺
とよまん事也二条院良基ありける也園字ハ庭園なと云

てにをはと云かとの 一源氏物語ハ大部の物なれハ
ところなり
三句まへし作同にハ二句計まへき也
後京式説不應也用本哥用左るそ
条金要可有静酌洗粋同物語事
まんしうて三句わしうる也二句用なり三句不用前句ハ源氏 もろハ同共一乃 ゆえてきへなりれハ
の心すてなけれとも源氏話付いるせハ前句も源氏の心になる
也それ近二句也源氏此心の連歌に又其乃まへ寺付て又
それに源氏付る悉皆打越に源氏あれとも也私作打越にあるハ無用
一雑物辨用事 不混の畫何 ことも辨用あり 一絶合表と云句
に弓と付て又引こへろをまへとなすと不付是
用なる物也本来とハ一の付是辨なる物也

俗今乃心ハうちめの心地俗うの
にゑなりて弓を付るやそれよりひくこのつるをすハ不付打
鐵ろとい心より来るる名也なを来とえ弓にひくこのつるを
すなと今ハ不可付よそきを也なを来同義宗書ハ自然つまを
たゝハなを来なとハ付へし注庵ゑてある一打鐵ろ弦あるハ
弦ゆゑ也説音寺ゑていそれしも也

本来又不可弦 やたり本
ゑなる義

一ゑと云句小縄と
付て又緒なと見を不付見弦なる故也ゑる
ひくなと八一の付ゑ見弦用也 物の也緒なと云八一弦ある
ゑ付也緒よなゑくよゑるひくなゑ
見用也かやうの結やうなりかたくなと不付
一座一句物 論語篇三隅而反ヲ不ル
三隅反ヲ則吾不復ト云

繞拳一隅を扨都為一座
一句物云云自余准之
乃せてをくと云心也一座一句
らなる物のゑ也都乃心地也物合乃心地云あゑ也て乃心地
自余准之ひかま
一座一句の物ゑる地
一里なくさ意一個又意なゑて八今一ゑを
物ゑ小ゑゑ系一ゑゑ一又ゑ物とて物
乃一ありおゑひやゑへ日沙日うけゑ日ゑゑ日ゑ月ゑ
物の入も一乃かなゑ義字を赤河まを赤ともなゑて
一若葉 節日正月七日也七日義句せんよハ是ハ見ゑな
弦の付ゑ也寄なをゑハ七日乃法ふもおゑく
よゑゑ言の物をにわゑなをゑ物弦ちゑふ弦に
道ハまゑひめめ式の物乃方地掃弓をゑて言面今日ふ
見めあすさへふゑハわゑなゑてんゑ方ハ七日乃ゑをよめ
弦を遠方なと辛ゑるゑ代七日乃ゑをさゑめゑみゑ
一説氏なをれ見なのゑてハ弦ゑゑ也七日なゑ法ゑゑ
のあつ物ハ七日也年中行事ゑ供若葉とあゑハ正月上

子日内蔵寮并内膳司より奉る也實ハ平年中より始く正月七日七種菜羹㕝食すれハ其人万病なく又邪氣をのぞく術ふ侍とあるく歌りまうなの草くハ皇りなあふひ芝よりおこさんとす蕪書如比拾也蕪すこへ御形蕾おほく志ろ一欸冬やまふき山吹也乃夜文佛座比七種也

一杜若かきつばた一牡丹ぼたんふかみ草とも云也ませのうちふ秋さく菊ハ二葉まで又そうさめりふくりん

ちらうあき花の詩

草よこの船廿日くさと云ハ苟菜乃事也　一橘たちばな　なれさら花と云とも一也　橘

牡丹草も云一草二名又二草一名花

氏ハ又てまた花の詩　一女郎花　一檜原ひばら　又ひさきなとてきた花の詩あらへしきてれ給

ハさくれ　一樝　めいし植物　一鶯　うぐひすとして又末そ歌のむをひてもよし

かよまき　一呼子鳥よぶこどり　古今れ三鳥乃一也連哥なとにむさとせぬと聞捨いたれりと也　一貌鳥かほどり

春　うぐひすの歌也かくとう八川世をのうち也又うつくなを　あさき鳥成もそろ花かくむもうつくしきむのとし也

かくれ子　をと時るそてなしく又まなし也をと時すくると

季可弱　一时鳥ほととぎす　いかよ額の字时の字色の字額又句时折

なるそ又句なりけをと时ゆるなと云連哥あく　秋ふ

なく鳥の名をむまひてまうそのなり　一螢　ほたるを

一蟬せみ　夏也　一日晩ひぐらし　秋也　一松虫　秋也　一鈴虫　秋也

一蓑虫　秋也　一虫　秋也　一蟷螂　くまう　一魔蛉　たつい　一精　イカリ　めいし　ミチカトリ　フス井　動物　雜也

一鬼　おに生類ふ堕く悪とり馬さて旧説ふ鬼神類ニ肖合候也生類すてても人倫にても非鬼なるものは

一女　めいし　新物　大躰の名ふ人倫也　一昔古　むかしきなんまつき二句也

一昨日　きのふ　一とてもけても一なり　一夕立　夏也六月时分七月初比近のうち也夕立ふとして　一夕暮　夕暮とて又ま

もひと
つなり **一村雨** 村字に二百為雨也雨水雨也四月八月の時ふる水
さくら井の井ものの水村雨ふる牧の下道と云白水深山名乃
花よりあめ〳〵雪ふりてとせ〳〵也三山乃花よ雪ふ
とふる新村雨水の付如氏乃心もちあるゆ也まちなとむさ
ぶ八重へ〳〵ふる雪八まつ雨水雨也雨よふる中あり先まつの雨
と正月二月乃初比そして又二月中時ふる三月中八まつ雨
のつまり〳〵とふるふるもち也さて四月八為雨也五月八又月
雨梅雨水花〳〵なり〳〵とあ花く命〳〵月雨の異名也
四月なり花ふ月雨よちち〳〵〳〵す心也六月八夕ちち七
月此中比時ふる也八月為雨又ふる也賢ふなとも此時ふる也
月十月雲月なと時雨なり雲月なとも此時ふ水みそ
れあ〳〵れふる也さて十二月ち雪なとふる物也比ふる
ふ〳〵ふ別ふる也雨ふ中八連ふ降うまにて
もふ〳〵仮雪八十月
ふる也月此八秋も **一雨** 仮名年
雨ふの須也以上
雨百物 ふき八ふ二の須也

一礎 こうふと八せぬ也礎と八こうつえんのふ也仮名牧
八せ〳〵ま〳〵と也ふ礎の書に義さめて物ふ
物の義そこふるもうつきぬとてけたる
うふきぬと八ふく〳〵きぬふうつ八せぬなり **一嵐**
を年為
二百物 あ〳〵れふえる雨也
風此字也ふ〳〵此山二河のふ奇為 **一木枯** 木と云字ふ二百枯
字雨ふ形可煙也
あ雨〳〵やかも也ふ〳〵此とふてもみ也もと秋と云説も
もれ八うへ物 **一朔月** 一ありてふ為
ふ二百なり の入ある也 **一夕月一隠家**
迷懐
なり **一かも** 田雨なとの雨の字形煙也 **一なるこ** 田なと
かもなとあふ為形雨也 にむま
物物ふ二百田のなるこに為麻ふ也ふ物也をふ
定雨ま八あ〳〵けまとも麻物ふ〳〵ふ也為ふ云ふ
麻物なとふふを云ふ
一ひこ みの流なとに板なとふふをこえてふ〳〵也
なるやうふ〳〵ふる也田乃をふふ〳〵也物物ふ

二句折板 引板

一板虫 板よりの白くまつ虫なり
もれハ俗乃字に二句
一度一句し板紙句を平兵虫一氏か
用ゑ不論此新式ゑ出ゑか板虫
ゑ氏か蕃技織ハ
替同面又一の用ゑ
同面ゑ久ゑ久ゑ蕃ゑ久ゑ
かに出むす出ゑ此同ハ一ある地ゑ
地蕃ゑすゑ此氏四ゑすゑあゑゑ地百韵
よ二三四ある推此板ハみる形を板ゑ

一小面小 面の形地

そゑき面 面のかよさめ面ゑすゑに面地あま百韵
よ延一用ゑ面二さめ一あま一地ゑゑこの

一板虫 板よりの白くまつ虫なり
もれハ俗乃字に二句
一度一句し板紙句を平兵虫一氏か
用ゑ不論此新式ゑ出ゑか板虫
ゑ氏か蕃技織ハ
替同面又一の用ゑ
同面ゑ久ゑ久ゑ蕃ゑ久ゑ

一鈴虫 **一蕃一虫** 此新式 右右

一国 此 孫の字小面地面此
字小も面之新ゑ地

一藍面 さめと小百
韵よ一なり

一面面 射面ゑすと回拍ゑて百韵小さめ
一と云ゑ地小面ゑ面のゑ地

一あま 面のかよさめ面ゑすゑに面地あま百韵
よ延一用ゑ面二さめ一あま一地ゑゑこの

面ゑ云の面附面の面ゑすゑハ面と云字ゑすまとも面ゑまさめ
よ面ゑ白ゑ地松風の面川ゑ白の面ゑ面ゑ面ゑ面ゑに地拍ゑ
面ハ面ゑ地松風の面ゑ面ゑ面ゑ面ゑに地拍ゑ

一馬 弱同ゑ地云ゑ面ゑ弱ハ氏か地紙 紙ゑ背
ゑのか弱用ゑ久ゑ韵面つの形地 今地面の
か弱形ゑ久てあゑ云のむまハさハゑきゑ地薄ゑ弱光
陰のゑやくゑうゑゑ地さよゑゑゑひまゆくこまのけ
うゑゑ秋かさなゑこの秋の夕蕾定蕃ゑ弱二のかよ
のゑひまゆく弱二ゑゑ秋ゑこの面ゑ地ゑ面ゑこのゑ形可地地薄ゑ
弱よこま可地紙形ゑ弱

一蓮目 此か永日 ゑまゑすても只一地蓮日
あゑゑゑすゑ と云拍ゑゑゑゑゑゑ地

一寒雪 さゑゑ久ゑなゑゑ 雪の寒雪にさ
ゑゑゑよて只一地 紙雪ゑなゑ むさゑすても
ても一地 **一秋雪** 夜雪ゑ地 秋も雪のゑく
一八ゑゑ地ゑ秋のさむゑゑに雪乃ゑゑゑハ面地ゑゑ秋のさ
ゆゑも雪のさむゑゑ面地雪のゑゑとゑのさむゑゑとハ

杉やいとさゝやうけて百韻よ四の四地又月紙百句
にさむこさも四のかたゝへ〳〵ゝ五月五〳〵も富士の雪し
雪なと彩乃句也それも折句ハさらゝへさゝ地名のさ
ゆるに八面秋雪ハ八月九月なゝへ〳〵潮雪歌雪歌を
さむこと〳〵てハ秋よなゝ〳〵雪雪弼雪雪世一初 雪可る
彩〳〵雪雪秋雪見のけ〳〵ら〳〵そさむさゝ〳〵 居所
初〳〵雪なゝに山の一庵 雪歌ら地名歌の
〳〵雪句見不よ二句 庵八又〳〵不 庵歌ら地名歌の
庵雪居不二歌ら地

一庵二句物

一曉 只一 其曉一 其曉と八弥勒ハ世乃〳〵地芳聖金峯
山よみろく出世ハ時庵ハ志ん金りゝく
あゝとて也獲〳〵て也 一代 弥代代の代二地世ハ代不也
也歌ら〳〵よあ〳〵ゝ足歌地 地ら代万代〳〵男ら代代の世又
句地弥代天地開 一素凡 只一素の凡一組不及 素の凡
〳〵弥代の句地 文琴女代二男ゝ
ゝ乃

凡とのゝ字入てハ
二あゝ〳〵す 一杉風 杉風 日 光もの字入てハ
なと結てつゝハ二のかにゝ 光 二なゝ又杉と字
あゝ〳〵 ゝ元素同ゝ日紙のゝ地 一月雨 只一梅面月雨
ゝ月不書ゝゝ月九夫名ゝ地又梅の実ゝ面ハ行ハ
と云面義地ゝす面の時ゝ地付ておつる地ゝ月面ゝて梅面
ゝゝ〳〵すゝ地不富ゝ云宵今ゝ地於芳川山ゝ東の夕日て
よめゝ時面りなゝと山百韵ゝゝ月面一懐歌ゝて二乃句
むめの面まもめゝ〳〵 一夕 二ゆゝよゆゝ 一今日 二一庵 ゝゝ一
うゝひす養句 面地氏昔ゝ 一吉 名不只吉ゝ引
但云琴地 ゝゝゝゝ二も〳〵ゝ 合て一様ゝ一
地ゝ〳〵ゝ 名不只吉ゝ一様ゝ一吉ゝ名不の吉
名ゝるゝとゝの不一地引合二志賀の吉歌の吉ゝ名不地
一畏 只一 一池 円 歌 一瀑 円 歌 一宿 只一様不一庵ゝりこの
名不玉一 ゝ不ゝりゝのやゝり

義のやうなと　共宿一やうの義にても用ふ
此用ふ又あり　より旅ゝ八一又義月ものやうり一
ある也已上四の心也たゝ宿と二八なさゝ也宿二一庭　呉一庭
用ふり二の心人のやうり八ゝ也舎　廳　刻なさ
に一庭のか寺皇居ふゝ用
庭ある人一庭刻八名別ゝ也　皇居乃月に一庭あり法乃
宮也皇居とハ宮居の庭也九ゝ庭の也　庭まゝの庭なゝ云八場の
る也庭割乃る市の場まりのふ八法の庭ゝに物用ふ也彩
一鳳　素一秋一秋屋　素秋の井にゝゝ　秋ゝる屋乃字ゝて季ゝ也つ八宮と
あつきなゝて八季ゝ也ゝ　ゝ也秋屋と云八越前ゝ秋ゝて
各ゝゝ　ゝる也秋の屋ゝて屋ゝ也　秋ゝなゝと各の屋
八ゝゝゝゝゝ也素ゝ八一稔　心のさゝ　一稔字
ゝゝゝゝと法との也　呉一　きゝる也
たゝ一ゝ也ゝ　たゝ稔の字二也　呉一刻の
一義ふ及此法　義ゝ宵今也　一令　いのちな

と云　令述懐ゝゝて又述懐ゝ也ゝ　ゝひゝゝ也ゝ
て一　ゝゝて又意ゝゝゝゝ　ゝゝゝゝゝゝ
物を煩也以上　老　たゝ一　老の連可學ゝゝ内ゝて
三のゝゝゝ也　ゝ不可法也學ゝ神の意
老のうゝひす老ゝ本の新ゝ也ゝ　一男　呉一
學ゝ法物ゝ老らゝゝゝと奇ゝ　ゝゝゝゝ
男なと　月のゝゝ法ゝゝゝゝゝゝ男人倫ふ
いひて一　ゝゝすゝゝゝゝゝゝゝゝ人倫　一依
係婦擣衣之部　女氏二句の拍懐　擣を也儀也ゝ衣
ゝゝ　ゝゝゝゝゝゝ　ゝゝゝゝゝゝ
ゝゝきゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
の擣のゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

の花書弱りてあてりけるさまもしきこゝろひもやの
言を添てきこえうせにけりと又今のつまも弱りてあてり
けるを八同言を添るとこゝに書八うの物語によりて大異乃
ひめをハふこうりてよむせさうかひめ汁もみてよむへきせ
也高姫秋をつるさ **一物ふくり** とありにあゝハ又中に
とう弥也山弥也 なをまた上の白れとありよみてゝ
下白なこれとまりのハゝ〳〵さ **一おもひに** 上の白
とまりにあゝハ又中にをく一さやうにをくさ也下の白に
ふとありハせす兼載乃歌に源八神ふ家え被ふ
とを白ふせゝきゝとも也 **一物と** 此詞をさ言を
多白なと一枝ふ一白もすへさを うへて二白也
此詞をさ言上下のをまりに形をくて二白なるへき也
連言の弁なこにをくとを二のおよまりきをまりの白
一意〳〵こゝひ〳〵きこうしのこうむ 此ことを二
白ふ准之仮

ふ及 意とゝ云字百韵よ二也意なゝて根と云字又みゝ
云替也 さを可弱むゝをこゝあなと意の連言あ
八二のかよ又みゝこうゝ 秋よ一冬よ一初冬
同お意二のかよ又あり **一叫面** 秋冬 名一
むをひて **一朝** 只一 月
もみゝ也 あけさ面也あさとあ **一霜鶴** 只一 名一
形也 弱タツ **一名残** こゝひ一 意のおよ又名残をよ一言
意一 花たこ一 也八是姫意の名残なり
一面影 只一花月 意の面影のおよ
なこた一 又一別よある也
云ゝて
又一 **一さゝひ〳〵き**
さゝひ〳〵さゝひ〳〵をなと云ゝて也ふれくさゝひ〳〵
こゝふ面影也さゝひ〳〵きと弥さゝひて形琴ツしく
一玉乃を 命と懐旧をゝてあるへ 命の面影
生の命なゝハをあなるへ 涙なり
一稍 只一花とも書ともゝゝて一 大本書と云ありてゝ
稍乃燈也弁にあるへ 書ゝ花ゝゝをさて

本来ある地物乃秋八月の異名也うゑ物に二句 一稲穂
和尚ホ云こうひていひ久也ともあるへ
を一孫といひ を一孫もいはれる物也 孫嫡物也おく
久へてみあるへ 穂と云字まもちの在
てれいなのるを秤 一塵 一のかちの在と云物ハ
ものもるを地 ちりなとみあるへ
ちりなとものやうにうきあるを物といふ俗そこ
也上ハちりあくたのやうにむさ 心也んのちりもむさ
とくたるんなるへ 仏法のかよ法令ハ法すへ
くと云物ハきよかるぬんを地 一法 法ハて八法の師ふて地云
法令の法と八法度のを地 地又命八不雑と云て法度のを
地天子このをすてなけ道を 公表なと八ホ國へ法令あ
るなとさ地異ヶ也の法なと云 立るを地結字也 一峯 陸地
律令けいひつ乃る地物結二の也 ホ不良
二之中ハ影二もあり
又一八名ホすてもを 一海 ハ一名ホ二ハ海
なとみ物ハ海

八海物のを地ハ海ハ海ハ海と云て海ハ海
とよむ地ハ海ハ海ハ海ハ海の海ハ海
にハ海ハ海ハ海ハ海ハ海ハ海ハ海
海のうを物地海ハ海ハ海ハ海ハ海
海ハ海ハ海ハ海ハ海ハ海ハ海ハ海
地海ハ海ハ海ハ海ハ海ハ海ハ海ハ海
蒼海 海面ロタツミ 一野 亀小野 一八名ホ
名ホの地のとを 可る 小野のを地
ハ名ホのとを 一郭 二郭と云て八 ハ名ホ野と
ハ名ホのとを 二郭のさハ二もを 一垣 二ヶさホと
を地物なをハ地ハ名ホ二ヶ郭ハ ひくすを
まをきも郭地雪雲羅もを郭地 一籬
ハ名ホ一雪羅一雪のまをき雲のまをき雲に
二句 海てをまをきよにをを地 一待遠
遠別 ホ郭 名ホ二句 一ヶを 二ヶをを
地唯之 ハ名ホ二ヶ
一ヶを 上句下 ヶをの 一ヶを 同
句名一 を地二地 一調

ことのえとまて一ことれ　これえとことのえ形也此二のか
ものうちと以此外よまえし　にこのものうちなとき所のごとくハ
みありこのえ見うちに出入のことのえ形又　只一法の
詞ふこのハみちも形の面を可略　一連　むすびろな
とに一昔むすびろ草遂　法のむすびろと紙法の本也帝酒
なと此中可用之く　なすの本の事也むすびろとまむ以之
むすびろくいまの遂をまきるるふやうなるとひやすれ
昔遂ことけのうへにめるま也昔をそのまし遂めして也之人物
むまよ婦草まむすびろハうへ
物よなし草拙の本也
此ろすにし免うも二乃内　一なすの色ん　息子一只譲一なすの
なり眺 十カム 遠視同　一涼　夜のかに　あるへし　夜一秋一　有へし

一座三句物

一春月　只一夜明一　已上三也但宗牧ハ春乃月とき
三日月一　て又三日月ハあるへしと也

故八月と云なとにかる也古あつまて　に一座　一夜月
三句の外にたし免り上ハ三日月もあるへし
同前　一冬月　同前名明秋のかに一三日月ハ四季　月ハ
のうち只一句也ニ及二三しうわぶ　四季
共に二つて也まる明ハ一つハ是非秋今一ハ春夜冬のうちまてても
いそしかちまる明ハ二なり三日月ハ四季に一也雪时為木架
とそ為の教なとに　一神　只一神代一　只神一神代乃
むすびて八月ハ冬也　名神　一　この之一名神とハ
天照太神天三川神なる也住吉の神なとハ名所也名神
まてなし三のかに海よまず神なと形をくて可至之
詠神　一花　一琴懐紙以物の花ハ此かなるへし年為
なる也　四句之物余花あるへし有内花初祭など云
ても四乃内也花ある面に採婦くの花以物花同前文
花て為三句之中まこち法花まて謂至今年下法四句三
句七以不て　もと八花三春ても　せさ免うを花今ハ形
なる子細あり云　に一つ是非とするも也採と西花と婦面余

花とハ百の花乃事也菓ハ花なり也実ハ菓ハ花ハ
也花ハ時分むきへハ百也花ハ菓とす実ハ雑也ろ実も西
花ハハなる也白雲を花とハ白雲を花とハ白ハ物也西也
物の花ハさくも西也余花も花ハ菓も西花四の内
也又花下白ハつゝのぬ也上白
花一へゝてゝハ二もあるへし

一岐 只一岐原一季を入て一組
季を入て又ゝ季分ハ
岐原の郡といひてゝ岐原とハ名所也大和也
岐原そこれ人也ゝ原雑也すこ
しものもあつ

一柳 只一季柳一 柳とゝ一季柳を
秋冬の名二 いひて一季に二のハ也
のゝゝゝの季也
此外に秋冬百乃内に一ゝゝ也
季柳ゝゝふあ季ゝれ外ハ
をゝゝゝ山樵なゝてあ樵

一樵 只一逢ゝゝ山樵
なゝに一紅葉ハ一
ゝゝひ物ゝて樵のあ
ゝのゝ人とも樵人といゝ
ゝゝゝ又あゝなと不入ハゝ
ゝゝゝゝてゝゝ加背今ゝ樵二樵ゝみち一ハ上三也ゝゝ

もみちハ七月のもゝつゝ也此外ハ樵朝ゝゝ員樵田ゝゝ
人なとゝゝゝすハ上三也樵田ハなゝ朝ゝ員ゝなゝれ内外
一ゝゝへゝ樵人もゝゝひ物の名なゝハ朝員なゝれ外ハ
ゝゝ二のハ一ゝゝへゝ実食也ゝたつ

一紅葉 只一物樵なゝに一季のみちと云てハ上
也紅葉一物樵の紅葉一ゝ也又紅葉の樵ハゝゝみ
ちのゝゝハ天川のゝ也古今ゝて川をみちをゝに日ゝせゝや
七夕つめの秋をゝまつゝん氏寄ゝちゝゝまゝ紅葉を樵ゝ
日ゝすやゝん見ゝゝゝハなゝゝ也紅葉の樵ハ氏ハなゝ
へゝゝゝ紅葉なのゝみち也ゝ紅葉の後ハゝゝ日ゝ菓紅葉も紅葉の内
也

一萩 只一枝おちゝ一
一季ゝゝりてゝも一也松のおちゝ竹のおちゝ雑ゝ
柏のおちゝゝゝハゝゝゝ物也ゝ百ゝ樵ゝゝを義葉
の内也義葉ゝ柳ちゝ松乃おちゝゝゝ物ゝ也

一萩 已上二也秋一季ゝゝの
只一ゝ冬の百ハ一焼原一ゝ也義一樵ゝを
久てゝゝへゝ沿秋のハ也の季ゝ一ハ外ゝ
ゝゝゝへゝ焼原春

也萩原とやさそれより生たるを云也萩のえだとす
豆ハ又さなるを也別名の草のうくいハみを也それも毛と云字
をむもとへハ秋也萩すくさも種なと云字ハ秋也たま
萩草のゆ也草の名も有ようてうりそう新波の
あハ伊勢のたま萩とよめるを大異たま萩ハ秋よりち
へ一ちそれとも秋の萩のかゆよめあるへうすゆ別ましうハ
秋ゆ一他事一又たま萩あるへさう時の仕合ようへ一不可
決大異たる萩ハ又秋のかゆまとゆくさうあり但秋のかゆ一
の内あるへさう萩二のかえま

萩あり秋も事をもこめる

一薄 只一名ハ一すくろの
かやなと云て一

以上三也ちくさ一名花一ちくろ薄花をかやつくるゆを
くろと云ハすきを尾さたろ近ようを落くろく出る
ゆ也去也かやつくろハ諏訪の祭るゆまくさのかうてう
やをあつろゆ也 尾花ちくかやゆ乃あうれ一村ようちと一
さとあつ秋乃又さ山かやゆ佐くろも秋也一の為ハ被也かや
佐くろハ又一ハゆ二ゆ尾かやつくろハ只ハ也す諏訪の祭る

乃こと也

一埴 只一名ハ一たひよ一
潮一 ちかゆ乃かゆよちかゆの内汲乃内一ゆちかゆ
の内名ハ一ゆてもやくちかゆの内也うし
かハなくれまつゆちゆる也こしかりか

一澁 澁と斗いひて一名ハに一ゆかに
ゆちくさすやくの内にちかあるへさを
只一名ハ一澁つせ一花乃澁
澁つせを澁川のれ内一ゆへ一
澁の澁ハ氏かなるへ一
澁つせ乃又湯の澁ゆ花の澁ゆに也抱れ
たさゆ有ゆる也抱山彩又
澁又あり已上澁といふ字四也湯抱ゆ色なゆ

一岸 只一名ハ一
皮岸一
ちさ
のれちさ一ハ来也れゆる也

一文 文ハ一ゆて又に也ちなゆ一草也
文と同ゆる也ま名のゆ字なとあ一ハ
ちさ文字ゆへ
ちゆさゆるあり

一特 鷺草一鶴 芸ゆて也冬
一鷸草一 ゆて也ゆる也一

なる也朔出る人なとゝかりといひてするときまへうし須小鷹
將一秋也邦鳥將なすとハ秋なれと大鷹のる事也そらめ
て秋より出らつらひそむる也獣將ハ云也永禄乃六月
於寒良二百韻よ冬れとりえるて又云後巴乃句に
ととき鳥也乃こす鷹人とせし也又めひる也[illegible]
里そふえてたのあり霜らひの里なすとなり朔出る人字と
いふのりとなくともねらひ
かりなと可煙利なり
異名引合
て二ッ尾也

一鶏

庭鳥一羽鳥一異名
一羽鳥も庭鳥なり

庭鳥羽分也羽鳥なと云ても鳥ゝ事なとの
まぬ也くゝりけとハ東國の方らひに家をくゝ
とゝ云也家鶏とうけるこのけれ鳥れ尾ハ鶏の
鳥の名れとるの也是異名也引合て只二也
一まとろ一ゝ為せこさ秋也又
々をさしてなまとハ雑也

一廉

只一
廉子

廉子云也あくなとせん秋りもなり
へきとする秋也秋の書への心なり
かせこハつれゝかせこさをさしたるやうなるとハ不事也かとさ
してといふなる史記云趙高謀為残せんとするときに
廉をそへて献於二世尭ハよきさてるとそてハなすきさとを出ひ
しふ出やるまて後といひたれハうちの者も趙高ゝり
をかりて云鹿る也云そすの王れ下ちくさらふくゝ心うんためし也
それよりむかんをくるしたて鹿るを也秦始皇加をさして
るといひたる世もあまえかもをもなしといふへりなり
又出ふなりけりたをくゝ車れかりと云物をかりてやりた
れたなりしこてくさ同時の行也かをさしてとハ雑也廉子す
かれふよかせこさかをさして利をみて一にかへし

一車

只一清車一水車一輦車三つ凡内ヰ王
車丈之との心也

多くの鳥え自然のるすなり
多車なすと八百
輦也よゝのる也輦車とハ手まてくゝ也車輿のやう也中宮女御等
とハのりありし也大内まてめさるゝ也又ハ摂政乃老僧なとの行
歩ぬかへぬ人なとゆるされてのる也輦れ宣旨なくてて
ゆるさるる事天子より仰出さるなり手車といふ字に又白
なる也清車
れすなる也

一筆

筆花るそなの筆れ唐記の筆托
多くれえとかくくすへし

組華苑なそむれ華挑なとといひくそて可然也但ゝ宵
今宵也今ハ二ある也華苑なてむれ華の座ゝむの草花ゝれ
内一また也まとハ二なり
何日しと見へく有り

一燈　只一句燈一　清燈一

清燈とハ仏法人の名人也も
云也亡人の燈のことく法のくらきなるを云也只常の燈なと仏
れおの燈れすとも云也常燈姫燈ゟ向御坊の法燈なとく
もかゝなと
まゝけるも也

一獨（ひとり）　只一座一月　松なとに一

月ひとり　ひとりひとりの座なと　松ひとり亦
れ新也ひとりれ座も
ひとりれ座と云也

一座四句物

一雪

此外まゝの雪一つ也拘の雪ハ各別の事也然來為四
句拘まゝ雪雪西用て秋冬雪雪不可為まゝ也秋冬雪雪
もとハ云雪れ雅すてう八用ゆる也今ハ夜也不可為まゝ也
後富士の雪と総季ゟハ又日又然來新式加まゝ雪也
為四
句也

此拘雪嫌秋冬ゟ此拘の雪も一の為遠也と也此節也
又然來新式ゟ宵今也秋冬此雪まゝ雪なる八一
とハ絶季の雪一と云事也秋冬雪とすまハ夜也富士のなと
雪なとすまハもとハ夜よなりしなり水無月のもちよ
きえてハその夜ふりけりと云まよりの事也今ハなる雪冬
なりきくみゆる不論雪四まゝの雪も四の内有りにせ拘
の雪ハ西を

一有明　各四季なと一前にてく宵今也

云也
一座一まゝ秋をともろと云て一座又
まゝ秋なるの事に一可然云云

一開　只一　名所

せこさいと云也まゝ秋をせ
こともろとある八座の
せこさへなす
座又く宵今也

一秋

只一つら一月れ秋洞の秋なと云て一
霧雲れ秋なとに一なりひつらくの
只秋一まゝまても冬にても一也月の秋月
のさやけさる也月れ秋ゝ洞の秋ゝ二の内
あるに一なるへし
秋冬ハ此おなるへし
一霧ゝ雲ゝの秋一なるひのまゝの表なく此秋なる也なるひゝ
つらくの事よ一まいと秋れたくひ四也秋冬ゝなまもれ也

うちそひ物宣
四つの内なり

一雑　只一人れ一尺義一尺義実名ふ
ふりの物を月数の名別名字次法字
尺義実名ふりの〳〵宵今也先雑二也りもむ
八幡雑也夕時ふ八ゆく也もりも也ゆきく八二白雑也かもむ
と八義八ゆもむといまれめよりまて夕時ら也尺義れうの八ゆ
もれるゆなくなりる〳〵ちもうちんけいのうなり

一宣　宣たのめなと云て八ゆめ也宣月宣と云字四也宣
ゆと月おなりそ〳〵おもて宣ゆてこれをもちる
宣名のめ宣月宣ゆ中宣宣雑宣辞
うハの宣なりの数みる雑西可月なり

一宮　非紙皇居

よ名二位一八名
ゆたりる〳〵

位の宣非紙也皇居也右の宣れ数みる
宣なる八北非紙也皇居也右の宣れ数みる
皇居也四つの内一つ八名ゆたりる〳〵

一物風朝　丁名物也以上四也
けきあ九雑西

一夕風夕

一数なる夕の字　月第四つ也
夕八雑西也

一名　只一ま名一
ゆ名むう名
名ま一ま名名菓名
なもまま也只ま名乃

おのるよ一名歟と云て一ゆ名ま名
うきゆれ名菓名ゆ八名別のる也

名一ゆ名といひて一ゆ名ま名
て一ゆりる名八たりれる也う
名ま名名鳥歟皆雑物也りま
る也菓名庭名也これもよれ
ひ〳〵数乃名八又白さる也百千名
ま名也ま名名ゆ名物也名ゆ百千名物
雲史八　雑なる也四つの内也雲史八面雑
此ゆ也　おもひ史よりまりたりる名
月ひ　史松史柳　史除なと名ゆ名物也数毋
半也　〳〵むりこなる四つ〳〵内たり
さる也りる史れるゆ〳〵むちゆ内むちゆ二白史のとなと又ゆ
あ〳〵むのま〳〵八西名りあ〳〵たまりゆ也

一史　洲名れ
廉数毋

一玉字　玉の
数竹

一葉字

此類不可　末れもく打て一ツ也これハ天と草類竹の類
涌て句也　又句なりひこといふ人も抱れ葉ハ打也

一寝字

め猿寝猫雑也ぬめ　と云詞ハかまへ　め猿雑りねぶまくハ詰無　也雑の字四ツ也ぬる此詞

ハひか也困眠ぬるを云ぬるのめるの蝶のめるかなとハ
又句去也外と云に雑ぬる二句也ぬるのぬる蝶のぬるの秋ぶまれ
雑る一の嫌折也雑ハあきまれるめ也ぬるまに西也折くりても
一の嫌ハ句也ぬるれぬるありて蝶此ぬる寸嫌打也ぬるまに
さむるおくる
ハ二句ちくし

一天字

天河ちし女なきれ数打に一ツ也
室に天　ちす河に天二句の又句の可嫌ちくし
二句也

一屋字

芦屋ちまりや
なきれ数四也

一戸字

戸と計ハ一まいか扉開戸岩北戸な
庵開戸岩戸なとの　と折嫌也戸さうしハうしにまいきる
あるに折とるへし
居不に二句也鎖字也岩北戸も居不に二句岩北
ささしれすせ岩北か山なと志やうハ居不にきるへきさる也

一座五句物

一世

只一浮世世中の内に一憂の世お世一後世一浮世世中
号名世るす雑住用只述懐世二ぬるへしと云化
世只述懐世二おこし世ヶ後世ヶ化世名此内に一
世ハお後此世　ちこ又世ハむなきや世ハ志つりまて世も宗まで
の内に可用
てあるハ平世ちて又一ちへ以上四也又憂此世ハ四のおに西を出へ
ちくちへ後お此世も憂のまい有なくハ西こちうかや代乃世
ハ又句也ちハお後此世皆述懐也
又義にきあしたるハ述懐二ツのおちくへし

一梅

只一紅梅一冬木一青梅一紅
梅ハ何としても折と嫌四也青此梅ち
葉一青梅紅葉なと　て又青に紅此梅ち又梅木の梅ちち
ハ自然のちまちくへし
青梅紅梅ハ自然の
る也已上四ツなり

一橋

只一御階一棚一名不一浮橋一御
階ハ可為各別ち浮ちし慈
橋一棚一名不に一うき橋一以上四ツ也ちらに御
浮橋なとと云
階あのまて又以也法ちしさハ大肉なとれき
て一ちくへし

たるもの也きてこそ〳〵とよむ浮橋ハ天れうきそ〳〵れ下よ
てめ祢お祢となるれうきそ〳〵也又爰れうきそ〳〵と八爰
と云詞ハいろ〳〵もゆく詞すてそ〳〵れ〳〵くたるといふる也
天のうきそ〳〵も爰れうきそ〳〵も出るよ只一そ〳〵へ〳〵

可睡打越物 付の睡同懐紙之物

一岩屋 岩なとれるあるうたるる也岩屋の
而も同岩二乃同きり屋の字にて又白たるへきを
家にも二白 一栖 住にも二白 一居而に田れ庵
居れ字ハ二白也 一居而に村雨雛 住居 住居而に住れ字に二白也
ハ白也門田とよへて居而ハ又白也門ハ百韵ハ只一也

一村なとれ歌居而忍而ハ二白なるを雨方雛同 一濱庇 武蔵ハ依白 大略居可睡居而也 而ハ又白也雄野行幸く附 一宮殿 宮殿ハ 殿をりぬうるるくれうくれいへまひさひさ
居而ハ又白也但濱れ例のハ〳〵ふ也ひさ〳〵れるれ玉菊庭を校たるうへハ
なるを云ハ二白なるへ〳〵只くまてひさ〳〵れやう ハ又白也 一皇
居古郷居而 里と云字に 古聖を家友ハ字 二白也里れ字ハ
二白也浦又白也 又白なるへ〳〵 一雪ハ路掛 二白 一霞ハ勝
二白おかなけなるぬ旅大りなたるめと云るハ不掛也玉云の
雪もたて二白也おかるに玉云なるハ不掛也玉云るる也
一雲竹葉ゑのなとれ煙そひさ掛 二白 一雲
上人 西上人のる也四位又位六位 一雲竹庵水
なるの彩也そひさ二白也

大内こゝろひ
さたに二白をもて

一胸煙思煙 二白也正月十六日踏歌の節會こゝろせ
男踏歌、女踏歌とてこゝろ也源氏物
語なとの八男踏歌也大こ正月十
云日八月の比なれハ京中の男女のあそのこゝろをえ
らひこくうふを名てはこ人て年れ始の祝言の詞を能
て華をまこゝせなとせこゝまこゝ氣よ踏歌とゝ也天武
天皇三年正月小大極殿小於て男女ハつゝ
也園歌よ踏歌れゝあこと丈こ中り松八月比なこゝ絲
ゝこもやこの歌ゝもこゝ小やや持統天皇乃御時漢人踏
歌を美し唐人踏歌を美ゝ也聖武天皇天平れ比こ
踏歌の後果て禄を賜ふこゝて仁義礼智信の文字を題
題よりて是を人こゝよこゝら受仁の字にこゝ也あこ也
たる歌ハふこゝこ布を賜ふ儀れ字こ禄礼の字綿智の
字よハ布信の字よハ注者節をゝ賜ふこゝ也又同き

御時踏歌寓よハ六位以下の人琴を引うゝ舞ていこく彩
武年れ始よ書字こゝ也つゝへまつゝめ万代まこゝ小延暦十四
年れ正月よハ詩を作ゝ也こゝ日踏歌
を小節こゝ白馬を明を大節會こゝ也小節よ
ハまちこゝんたちめせと御こゝ大節會よハ刀禄百せこ内弁
れ御こゝかゝりめやこゝ天ハまちこゝんこゝ大史達とかけ
也五位の拍子也五位以上の物をめせこゝ作すこゝ也大節よ刀
禄こゝ六位を云六位の事ゝこゝめせこゝ大小節を
わこゝ小ハ偏頗の恩よこゝ也あこゝ也こゝ也こゝ大小節を
あこゝ也こゝ也こゝ宣命れ漢小ふ明こゝ也
言巾子綿れなをこゝこゝは男踏歌れこゝ人こゝ今の
せむすまんこゝのやうこゝ也御こゝ也源氏物
語よ蓋こゝ也こゝ也こゝ也こゝ也こゝ也こゝ也こゝ也
むこゝこゝこゝれこゝ也こゝ也こゝ也こゝ也こゝ也

一時分与時分夕暮曙之事 夕くれこゝにあき
の暁ゆこゝのこと

二句也朝時与朝時分も二句也夕時与時分ハ又句也夕ハ朝時分付
てハきらふ也去りのくめくりて又時分なくハ朝時分計ハ嫌也又なそ
又此時非人倫非と云字ハ又句去二句去夕此ハ計也朝ハ不
嫌也入相入日ハ夕かすむなとも同前薄色時分のうちくもり
生類ハ
二句也　一月ハ日次の日　永日　春日　秋日　冬日　夜日　あつき日　暮日　日ハくれて　空日　日
数日より月日如此の類日次也　春日永日秋日なとの類も
うたかひいつるさすりけなとあるへくハ三句也空の日ときらめて
のするれハ也子日と云も日次の日
三句去り月ハ二句去る也　巴馬　一日に月次乃月
年月夜月非夜月以上非秋分也星月夜秋分也
此類八月次也名月と云ハ秋分也又此月十五日此月のう
也月次の月ハ去り付てハきらふ　一種蒔(たねまく)　春也種物ハ
のさハ二句也巴の類ハ去　二句去り
一野の色付　秋也人倫ハ二句也野色の
みどりの色なとも非秋ハ　一冬

根の野山なとに植物　冬かれの詞雅も山も草も園
かの木の類をせんせぬ
一をのなり
植物ハ二句　一埋木(うもれ)　日　人倫ハ二句也
人倫ハ二句嫌折　山ハみとりの色霞の色ハ晩かなと云　一野山色付
越候可依句体也　花不嫌也秋なとの季をもつハ二季也
一植物に草の類秣(まくさ)　草の字ハ二句可為　人倫也草をとる八非人倫不嫌
る八人倫をすてなし木ハいつくみても二季の花なる　一園(その)
〔ゆる草生類ハ二句人倫ハ二句ゆるくきらふなと也
藪(やぶ)　人倫ハ二句やふ竹りも二句也竹斗の
名ハよみあり草木の類ハよい也　一秋田　田の気
如此類秋の田の名ハ田ハ庵居なとくまへて人倫ハ
一句に嫌也庵をとふるとあらハ可嫌なり　うつ鳴
子ひきてうつからなとともに世ふるの類
こもりこもるなとの字加てハ人倫ハ二句也　一竹刀

くさ木 二句也 一心乃松 心のうつくしき也人をとまり所をもすむ也うへ物
よ二句つまりなさる也 一心枝 枝物よりの姫こ也をすくすもすむ也又
るまもすする也 一苗代 苗物よりなる不姫也然る物ちうう宵今也姫み色
二句可姫こうる云 表也種物よ二句ちり
一下もえ 又物よ二句賀を山多園の原の
の形をむすびてすへて表也 一冬梅の
芦屋芦史おに色 冬くれのあ也冬梅乃
色よ二句也冬也氏およ あ史乃多梅物多
年のあ又ま物上二句也 一浮鴨原 山よ姫打越但
ふ可ゐ山形也
但ろう宵今也山形み色ゐつき 一人偏与人偏 二句也
まてもなりしおよたく酒とうへ
老よむ〜結ても 一礁 よ衣雷衣之形 ふ物こ姫こ
まハふ姫なる

雄衣なと
八二句也 一生形贄 依句の神 服系の贄と
臭を筑業より
ますやうう礼食物ようくく 也ハやうて弟食なくに信しけ
也景行天皇御宇筑紫國宇五那も濱まて海人是
を釣てなりうれち聖武天皇の御時天平十五年
四月十四日太宰府より是をたりしうる年毎の御
弟食ゐ信是へさすしきうめをうまて也大内へ集ら
ハ姫神祇也神へ生贄とて精進なるうれ物を集
ちうなまそれハ神祇生形二句なり源物なるへも
廉なと高也ちう 一放生 又ゐ 生形よ二句ゐ色
かのにへハ云ちり 色也 に又句石清水乃
なの冬高也都八幡大并也中ハ人皇第六代神門應神
ちう皇なるる仲哀天皇第四皇子也母ハ神功皇后也
照中ちう皇ともも又冬云田天皇名付なる誉田なる
ちう也ちうを也ちうしを冬四十一年一百十一家の

[illegible]を[illegible]と[illegible]欽明天皇乃[illegible]代に始て[illegible]
[illegible]と[illegible]肥後國[illegible]形[illegible]と云[illegible]
敬生會のとき[illegible]元正天皇御宇養老四年九月
[illegible]國[illegible]時大善薩[illegible]力[illegible]
[illegible]と[illegible]
[illegible]と敬生[illegible]
[illegible]早池奥乃[illegible]
[illegible]
[illegible]

一心と打越嫌ふべ
きよし不
嫌ふべ

一温日与也閑

一涼よ冷寒に冷分よ寒むよ寒

あつさ
あつり

一雲よ曇

二日よ
のそひ

日ぬあつくいたす
ともまさるべし二日也

一雲に子日

又日子乃日と云心也むしろ人と乃人におて子ぬ日まろ
とて松を引ぬる也栗崖流多融院三条流なとぬ法
附も此抱あるなる中よも多融流の子日をさせ
ぬひなると也寛和元年二月十三日のる也又ちのちと

一春よ春の日抱月来

う人抱に二日日次の日な
ろべし月に二日日よ

一音

ひさ
山波の吉

ひさ
山波の吉

嵐乃吉羽
吉川

一夕小素秋の蕎

一撫更よ未ぬ字

きこり

一俳よ新

一新小法

法にもと下月くれ嫌
く紙ちて抱よ
法よもとしたも山のひ木の
法なもとやうに
法ぬ八嫌也

一新小

法

不可　新と法とハ二白也ちかく二白入日のちかき雪のちかく道なと
煩こと　とれ新ハ不煩こと山くれのこのくれも法ハ二白入日源
の新ハ不　おなし
煩なり

一意に　ちろく　二白をもちも　一袖ぬる
おなし

水潤　意の意ちかてぬる　一　潤水袖乃霧
に源ハ不苦なり　多默の明ハ　人のなくに
日前意の　おのるも也　源二白也
意ちかれる也

一なくに潤　二白也意の白ハ日るも也
面意巴のよハ面なり

一別水袖　意の心ハ　一別
日るも也

にさぬく　為意白ハ　衣くと云もるる衣とも
丁煩同面　をぬくにさてわるる
るも也　可依　思ひなとおふ
新分心　白狩　とふ乃字あるハ

一おもひに失　不煩也さくぬ也ひ胸の　一ぬとぬ
也ひなと云ハ二白也　似ふのぬ大切のる
打紙返ハ不す煩

上　二十六

こと也意　をくんぬハ二白也てたくふぬハ大男をくんぬ
定こと云　也ふのぬとをくんぬともとまり打紙なとたれ
里あハ煩也さなけ意ハふのも不煩也
大略多白のこれ字にぬこ二白也

一巴去の〜文字　別〜と天孔まて　一巴と巴　二白也
山ちく松まく　なとれ新巴去也むふ〜ハ
てに失乃〜も不煩也むふ〜ハ二白なり

一義
ふうけく孫兄に義　うてと孫兄も二白ク義
を也巴　さむちに孫くれ名こくハ
分こ也

一明ふあけ　今日那日乃日弓
に矢　弓弦月年れ矢ハ　弓に矢二白弓弦月ふ弓
心新ふあすこ碧形　析年れ矢ハ矢形弓弦
月ハ三日月なとれ桜ふ弓を弦ちるふ水ふるる也年の矢
てやこさる也矢を射ちこくてやこさと云る也弓弦月年の

上　二十七

矢をつがひて弓
矢も二白也 一蓑(みの)ゝ笠ゝ蓋ゝ字
夕三夕付ハ二白夕の字ハ四白也 一明蓋
ゝ蓋ゝと云ハ夕ハ夕ハ蓋ゝ
ゝ夕 ゝ付ハ不嫌但 一朝夕ハ蓋ゝ字
ゝ付ハ二白嫌ゝ
ゝ付ハ各二白嫌ゝ
ゝ付ハ夕付ハ
不嫌ゝ 一志のゝめゝ和 夕付ハ
ふの嫌ゝ
打越ゝと
ハきひ
ゝ作者ハ
ハ一誰れハ夕の字 和ハ
不嫌也
いや也嫌ハせめゝ
一とをゝたゝ
二白 一窓ハ戸
今ハ面也
門窓戸
れ和ハ
也 一あとわきハ祠ゝ
うゝ打越可嫌
該字なれハ也
口ハて云ゝ
ゝひれる也ゝ
ゝ和ハてハ云れゝ
ゝふ
ゝまなとりハ
ハ二あまゝと
ゝまなと云ハ不嫌ゝ

一ゝゝゝ蓋 夕と云字ハ
不嫌也二
ひゝ月日 但月ハ
和蓋又日光陰ハひゝれけなゝの我
のゝ光ゝと云ハ蓋陰
と云ハ和れゝ也 一野分ハ野字分字
蓋風ハ出ゝ八月ハ
一夜吹也 順和名
一木拓ハ木れ字青に緑
ゝれに
も不嫌也 一家風ハ嵐
東風ハ家ゝれ学文の
ゝ居不ハ二白風と云
字ハ又白也久ゝれ月の
ゝも和ゝゝゝ以へのゝ也を
也て〻ゝゝゝ天祈の和ゝ
也和ゝ拓也 一木曽ハ木字
ゝ和ゝ学ゝ及才のゝ
ゝ和ゝ拓を祈
ゝ和ゝ
ゝ和ゝ
ゝ和ゝ

天よ空　あまに中　一滾路ふ見ち　山海経にあり
又白可　あらら滝八又白也あそちゝ海と云ても　一晨
煙うく　國の名よ付山彩ふ也てもあるてもあるし

明ふ有字　明字よハ　一入相ふ入字是字
黄昏　風ともなくて用ゆてあ彩
と書　三月風よ打こゝ可煙

一蔡の麦　松の麦ハ松の言松のひく言
風松の麦の彩作のそ
二白也芦なくれそくも雲
煙也宗雲氏なくハ風と云に蔡の焼原なく言蔡を八付
る也ゝ也ゝ蔡ゝういそハ言ゝ
あゝんと云説よあるもめ
そゝへ毎ん拂拂よ彩　越可煙　なけきれとなけきこる

なゝれ彩の
ふ数の麦
長数乃七年八
十ふ八ふ煙うく

一齢の三ちそち罕ふ年乃字
八十氏人なゝれ彩石煙うつせゝの麦
ゝふ基乃国英ふみそゝそゝそゝかん
ゝふ基乃国英ふみそゝそゝそゝかん
ゝふ基乃国英ふみそゝそゝそゝかん

二禄字也物ものゝふ
ゝ又白丁蝿

一うまに懶ものうき 二墓につき

墓所 二ゝれゝも二白俱ゝ
不蝿ゝゝ

一名蹟よ名ゝ

字詩乃字 余波 一おもひやるに思ひ
と云

ゝも
二白也

一ものゝに事の字 二ゝゝ所紀

に事字 付白蝿ゝ打紙ふ
黄ゝ也ゝ字之

一知
ゝゝ色ゝり

ふ物のゝゝ物ゝ

二白ゝゝも物ゝ
百白ゝ一ゝゝ

一あゝ

ゝ ふゝゝ字 或説一向不
ゝ蝿ゝゝゝ

二白 一いつくいつ
也

なにかゝなゝといゝにゝゝ

芳ひかりひゝゝて
二白可蝿也

ひゝゝ孫ハ又白ゝゝ二ゝゝ
ゝりゝゝにゝゝゝ又白ゝゝゝとゝゝゝれ面也

一ゝとなり

ゝゝとゝれゝゝゝとなゝ

付白蝿ゝ打紙不蝿ゝ
紙字ゝは不蝿ゝ

二字ゝゝゝの八
二白也

一なりなれなゝ

ゝゝも一字ゝゝゝゝゝゝゝゝ不
れ彩不蝿也歳乃字と蝿ハ又白なゝ

ゝゝ
ゝゝ

一たゝゝ

に弱 但可
白

ゝゝゝゝゝゝゝゝ

薮陽五薮陽日本のこと也
道中道也日本八和國也
命 二句いくらにたりあるも二句
二句たりあるもあるも二句
大異蟲也俗句面
如と面蟲也巴新

一偽小真ニ生死よ
依句祈
不蟲ゝ

一齡よ老
已上付句也
にの蟲ゝ

一親子
二相双系ぬ及
祈紙可ゝ

二句蟲也
如ゝ見樹乃下の赤蛙
れ句を宗長蛙用之字余と云ゝ

一文字奈事
敵ゝ元ゝ用文字奈
ゝ蛇ゝ也見和平抄矣

一燈与目暗
祈也

一昔と古
祈也

一楓也
紅葉
祈也
紅也巴

一在与うゝ世事中
祈也一在句
ゝ面にゝり

一前在と後世
祈也立れ世ゝれハ
述懐に面也

一稚在稚分
巳上ぬ氏新
丁蟲同祈

一面露と東屋
ゝ面やと六八あつまや作とて
表の浮ゝりやゝ一ゝ也

一称号と園
竹上可
蟲同面

一称の字
一在四句れの
字面に秀

一清水ゝ
芙句ゝ
ゝ蟲同祈

ゝ秀者
ゝ面ゝれハ面也一在一句の
句のところゝり

一稚在に楽門乃在稚人
ぬ氏新可蟲同面仙
丁蟲同祈矣ゝ

一述懐尺数世
猪面可
蟲ゝ

一在世
一在句の句乃面に
句を尺数の在八佛句

なとむとなへハ戸叢也

一法なとの部なり

余数乃字ハ不普析然

不用とて異別なとを部

とハ二三ハ

字のなり也

一三字假名事

部ハ三字なりなとも又白也ふみ

あさきたりさなとハ此也此是也是の ハいれも大男

ハ此字

不煩なるを是是なとなるを八是に二白此字

部より八部より一ツ只中より

又白さる也字さりなるへ

一文字 大切なる多之部

面可用之条一部之云

一文字ハ面なるをひとつと云也

同ひとりといふより二白数の字

心地りふ

なとの

一假名事 の煩 同面

只まゝ丸

なるなと

一仲字

部

一老与白

髮 可煩同 面なり

一業跡与名跡

跡 丁煩 同部

部

きうけつと云者名のあとをとてを字をつくりたり

源氏なとふもあやゝきなるのあるのやうにとりなを

古部なる類ハ可普同析不部者字也

なるへ

一岩与石 の煩 同部

長和なるの部ハ部煩也只書のあと部

のあとなるの部ハ又白なり

岩ハ二石ハ百部より一なるをあるとも

云名和ハ二白部又白部面可易

一真砂ふ石岩 う煩 白砂なると 云も面也 同面

一篠与

ふの 同部

ふのと竹なるハ又白なるを竹

もふ白ふのとすなとも又白

一竹とす

三白可 煩ゝ

一弟字ふ弟系 丁煩 冬 同面 也

一九重

部与大宮 丁煩 同部

部なるを大

部なるとや

上

のうたをかきたるの院々たるのうたと
かるをたゝかひの文弥の文たと八彩よ面元可弱